



自分にできることを、見つけよう!

福井市総合ボランティアセンター

そうぼら通信

2019

令和元年
9月発行

Vol.14

高校生ボランティア体験活動 in セルフフェア

8月2日、福井市総合ボランティアセンターでは、ボランティア活動のきっかけづくりを目的に、障がいがある方たちとセルフ商品を販売する「高校生ボランティア体験活動 in セルフフェア」を開催しました。県内8校から参加した20名の高校生が、ボランティア活動のオリエンテーション後、(福)福井県セルプの永田弘幸さんから、障がいへの理解や障がいがある方の仕事についてお話を伺いました。



障がいがある方もその人の得意なことを生かして仕事ができること、仕事のしやすい環境づくりをすることで就労の場が広がることを学びました。その後、福井県庁ホールに移動して福井県セルプが主催する「セルフフェア」に参加しました。

「セルフ」とは、英語の SELF HELP（自助自立）から作られた造語で、ハンディをもつ人が自分なりの働き方で社会貢献しながら自立することを意味しています。

今回は、ハスの実わくわくワーク、はす工房花里音など、県内7ヶ所の障がい者福祉施設が出店する販売ブースで、高校生たちが施設に通所するみなさんと一緒に、お弁当やお菓子の販売や、お客様の呼び込みなどに取り組みました。



各ブースの売れ行きも良く、最後の片付けまで協力して終了しました。活動後の振り返りでは、「障がいがある人がいきいきとお仕事をしている姿を見て、得意なところを生かした仕事ができる社会になるといいなあと思いました」、「今回の福祉活動を通して本格的に手話の勉強をしようというきっかけをもらいました」などの感想が寄せられました。



総合ボランティアセンターでは、今年度はこの他「あじさい植栽ボランティア体験活動 in 足羽山」、「英語でおもてなしボランティア体験 in ハピリン」を実施します。今後も、市民のボランティア活動につながるきっかけづくりを応援していきます。



災害ボランティアセンターってご存知ですか？



国見地区で災害ボランティアセンターの開設訓練を実施

6月23日に実施された福井市総合防災訓練で、「災害ボランティアセンター」の開設・運営訓練を国見小学校で実施しました。訓練には災害ボランティアセンター連絡会の6団体 17名が参加しました。この取り組みは、災害時の運営に関するノウハウを習得することと、センターの存在と役割を住民のみなさんに理解していただき、地域との協力関係を図ることを目的としています。

訓練は、センターの設営から、ボランティアとそのニーズの受付と送出しなど、実際の災害を想定して行いました。

ニーズ班の受付では、相談に訪れた女性から「2日に1回病院へ透析に通っている家族がいる。家が倒壊した場合、介護の家族の被災状況によっては、ボランティアに病院の送迎を頼めるのか？」といった相談もありました。

災害ボランティアセンターのアドバイザーでもある、ふくい災害ボランティアネットの小川さんからは、「命に関ることなので、入院を含め病院やケアマネージャーなどの専門の方に相談してもらうように」「専門機関に相談をつなぐ視点が大事」とアドバイスがありました。

また、同じくアドバイザーの市社会福祉協議会の小柏さんからは



「実際の現場では、“できる”“できない”の判断がボランティアで難しい場合が出てくる。災害ボランティアセンターが住民のよろず相談センターにもなる」とのお話もいただきました。

今回は、多くの国見地区住民の皆さんや、国見小中学校の子どもたちも参加して、災害ボランティアセンターのコーナーを体験していただきました。災害時のセンターの役割について学んでいただくとともに、防災学習の機会となりました。

日頃の地域のつながりが「防災」に役立つ！



6月28日、湊公民館が（公社）ふくい市民国際交流協会と協力して、「多文化防災研修会」を開催しました。湊地区は福井市内で最も多く外国人市民が暮らす地域です。

ふくい市民国際交流協会は、国籍や民族等の異なる市民が、互いを認め合い、地域社会の構成員として共に生きるためのまちづくりに取り組んでいる団体です。

この研修会では、地区の外国人市民にも積極的な参加を呼びかけ、共に防災について学びを深めました。いざという時に助け合えるのは身近な存在である地域住民。外国人市民のみなさんには、普段から地域でつながりをもつ意識が大切であることも伝えていきます。一方、地域の方には、外国人市民にいかに分かりやすく情報を届けられるのかをポイントに、簡単な言葉に置き換える「やさしい日本語」の普及・拡大に力を入れています。

湊地区で多文化防災研修会を開催



災害ボランティアとは

近隣住民の助け合いだけでは対応できない災害が発生した時に、被災者が少しでも早く元の生活を取り戻せるように、自発的に支援する活動、または活動する人のことをいいます。福井市では、平成9年のロシアタンカー重油流出事故災害や平成16年の福井豪雨災害の際に、多くの災害ボランティアが活躍しました。

災害ボランティアセンターとは

被災地でのボランティア活動を円滑に進めるため、臨時に設置される拠点で、災害発生時に、全国から集まるボランティアを受付、必要とされる被災地・被災者につなぐ役割をします。

福井市では、このセンターを立ち上げて運営するのが「福井市災害ボランティアセンター連絡会」。構成団体は官民7つの団体で、災害時には、市の要請や独自の判断により、連絡会のメンバーで設置の協議を行い、災害ボランティアセンターの立ち上げを決定します。また、平常時にはすみやかに被災者支援ができるよう、ボランティアセンターの開設運営訓練等を行っています。



福井市災害ボランティアセンター連絡会の構成団体

(福) 福井市社会福祉協議会、(公社) 福井青年会議所、福井県防災士会、
(特非) ふくい災害ボランティアネット、
福井市ボランティア連絡協議会、(公社) ふくい市民国際交流協会、福井市

災害ボランティアセンターの役割

- ボランティアの要請（ニーズ）の把握
- ボランティアの登録受付及び活動紹介（コーディネート）
- ボランティア情報の提供
- ボランティア活動保険の加入手続



東日本大震災の支援活動の経験からインタビュー



後藤勇一さんは、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市で、6年間支援を続けてこられました。現地には、チームふくい（福井県災害ボランティアセンター連絡会）の先遣隊として震災3日後に入り、まず災害ボランティアセンターの立ち上げを支援しました。地元の社会福祉協議会は、建物も人もお金も無くなっていて必要な機材もない状態だったそうです。そんな中、後藤さんは避難所をまわり、チームふくいの現地窓口として福井県からのボランティア受入の調整を行いました。活動では、瓦礫の撤去だけでなくいろいろなニーズがあることを実感されたそうです。被災から落ち着いてくると生活再建になり、ありとあらゆるものが必要になりました。しかし、災害ボランティアセンターはどうしても形式的になってしまい、現場よりもマニュアルに添った活動になってしまう、と感じたそうです。これから、災害ボランティアに参加しようとする方に、後藤さんは、「何ができるんだと思っている人も、行ってみればなんとかなる」、「そのためにいろいろな技術や、自分の得意分野をつくるのが大事だ」と、アドバイスをいただきました。



南部敦子さんは、震災直後の宮城県石巻市で動物救護の活動をされました。

ご自身が飼っている犬の一匹が保護犬（動物愛護センター等で保護された犬）だったことから、以前から保護犬のボランティアに関心があったそうです。石巻市の現場では、震災により様々な理由で飼い主と離れ離れになった犬や猫たちが保護されていました。南部さんの主な活動は、犬の散歩やエサやり、飼育設備の清掃でした。リーダーが「ボランティアなのだからやりたいことを楽しくやろう」というスタンスだったため、それぞれ自分の得意分野を活かして活動していたそうです。動物用に全国から多くの支援物資が届き、中には動物へのメッセージが書かれていたものもあってとても感動したそうです。また、飼い主と保護犬が再会する現場に立ち会うこともできました。

震災をきっかけに、今年6月からペットのマイクロチップ装着が義務化されましたが、当時、マイクロチップがあれば、もっと早く再会できたかもしれないと思いました。

南部さんのように、自分の好きな分野で誰かのためになれるって素敵なことですね。

福井市総合ボランティアセンターの講座情報

詳しくは [福井市ボランティアネット](#) でご確認ください

タイトル	日 時	会場・定員	内 容
ボランティアアカデミー 「カフェボランティア コース」	9月26日(木) 10月1日(火) 10日(木)または15 日(火) 17日(木) 13:00~15:30	カフィリーズ 愛全園 あさくら苑 定員: 15名(先着順)	珈琲の淹れ方や効果を学び、それをいかして活動する カフェ(喫茶)ボランティア講座です。 【申込み受付: 8月15日(木)から、電話、Eメールで】
市民活動を応援する 助成金事業合同説明会	10月12日(土) 13:00~15:30	総合ボランティアセンター 研修室 定員: 40名(先着順)	地域や社会のための活動を応援する各種助成金につい て、助成団体が説明します。評価ポイントや申請のコツ を学んで、活動資金の獲得に活かしてみませんか? 【申込み受付: 9月14日(土)から、電話、Eメールで】
市民活動の お助けアプリ! SNSとLINE超入門講座	11月9日(土) 13:30~16:30	福井県産業情報センター パソコン実習室B 定員: 20名(先着順)	市民活動に役立つ情報機器やインターネットなどの使い 方を分かりやすく学びます。 【申込み受付: 10月15日(火)から、電話、Eメールで】
外国人に伝わる 「やさしい日本語」 ワークショップ	11月16日(土) 13:30~15:30	総合ボランティアセンター 交流ひろば 定員: 20名(先着順)	「やさしい日本語」を日常のコミュニケーションに活か して地域の見守り活動に役立てませんか。ワークで「や さしい日本語」に置き換え、外国の方と交流します。 【申込み受付: 10月15日(火)から、電話、Eメールで】
「企業ボランティア 応援セミナー」 ~企業担当者が 知っておきたい秘訣~	11月28日(木) 13:30~16:30	総合ボランティアセンター 研修室 定員: 30名(先着順)	企業ボランティアの取組みの事例を聞きながら、担当者 の役割や活動につなげる視点を学びます。 【申込み受付: 10月1日(火)から、電話、Eメールで】



総ボラの交流ひろばに NPO・市民活動情報コーナーが できました!



ハピリン4階の総合ボラン
ティアセンターに、各種団体の助成金
事業の情報や、福井市のNPO・
市民活動の情報、NPO関係の書
籍や団体のイベントチラシなどを
常設するコーナーができました。
団体の情報提供や助成事業の相
談、ミーティングにも気軽にご利
用ください。

福井市ボランティア
ネットのホームペ
ージで、いろいろな助成
金の情報が見つかり
ます!



自分にできることを、見つけよう!

福井市総合ボランティアセンター

ボランティアネット

<https://www.fukui-volunteer.net/>



総ボラではこんなことができます

- あなたにあった活動が見つかります!
- ボランティアの情報がわかります!
- 講座や交流会に参加できます!
- 交流ひろばや研修室がつかえます!
- チラシやポスターが印刷できます!

〒910-0006 福井市中央1丁目2-1ハピリン4階
福井市市民生活部市民協働・ボランティア推進課
TEL:0776-20-5107 FAX:0776-20-5168
E-mail:volunteer@city.fukui.lg.jp

- 開所時間 火曜日~金曜日 9時から21時
土曜日・日曜日 9時から17時
- 休館日 月曜日、祝日、年末年始
(祝日が土日の場合は開館)

